



# あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り  
2学期最終号 No.657 令和4年12月23日  
青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望

## 誰もが気持ちよく過ごせるためには ～難聴理解授業の実践から～ 校長 関谷 望

早いもので2学期も本日で終了、令和4年（2022年）もあと1週間となりました。

今年も夏に大きな感染拡大があり教育活動への影響が懸念されましたが、運動会や音楽会などの大きな行事もやり方を工夫し、無事に実施することができました。また、その他の行事や体験学習、ゲストティーチャー（外部講師）を招いての授業など、多くの教育活動を行うことができました。

先日は4年生を対象に難聴理解授業を行いました。これは本校「ことばときこえの教室」の教員が、「難聴」を例に、「誰にでも苦手なことや困っていることはある（あってよい）」ということの理解や「誰もが気持ちよく過ごせる世の中にするためには」ということを考えてもらうことをねらいに、毎年実施しています。

今年度の授業は、1回目は学年全体で、2回目はクラスごとにというように、2時間扱いでの学習としました。

1回目の授業では、「もし音がきこえなかったら」ということから、実際に「聞こえない」「聞きづらい」状況を体感できるいくつかの実験を行いました。また、聞こえにくさを助ける道具や環境整備についても学びました。2回目の授業では、「聞こえづらさがある人と関わる時に、自分たちができることは」を中心に考えました。映像などで実際の場面を提示することで、子供たちはじっくりと考えていました。

授業のまとめとして、授業者を務めたことばときこえの教室の教員が「苦手なことや困っていることは誰にでもある」「自分の苦手さや困っていることを認められることはすごいこと」「自分の苦手なことに目を向けられることで、他の人の苦手なことも考えることができる」ということについて話しました。

子供たちからは

「誰でも苦手なことがあるから、それに寄り添えるような人になりたいと思いました。」

「私たちにとっては『当たり前』に感じていることが苦手な人もいるし、人によって『当たり前』が違うから、そういう気持ちを考えて協力していきたいと思いました。」等々、授業の主題に迫る感想が多く聞かれました。

「ことばときこえの教室」があることは本校の大きな特色の一つです。こうした取組を重ねながら、河辺小の学校経営方針の柱の一つでもある「自他尊重の心」を一人一人の児童に育ていけるよう、そして教職員一人一人も人権感覚を高めていけるよう、努めてまいります。

令和4年も本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、本当にありがとうございました。  
よいお年をお迎えください。